

第4回美濃加茂市総合計画審議会議事録

1【日時】 平成31年4月23日（火）19:00～21:05

2【場所】 美濃加茂市生涯学習センター203号室

3【出席者】

(1) 議会委員：海道会長、杉山副会長、高木委員、糸賀委員、今村委員、澤田委員、高井委員、鈴木委員、深貝委員、安藤委員、鹿野委員、藤井委員、福田委員、岩本委員、西田委員、久保田委員、渡邊（明日香）委員
(19名中17名出席)

(2) 市長部局：経営企画部長、企画課長、その他企画課3名

4【概要】

会議に先立ち経営企画部長から新年度の体制の説明があった

(1) 会長あいさつ

(2) 配布資料確認

(3) 定足数確認 過半数を超えているため会は成立することを確認

(4) 報告事項 事務局から第3回審議会議事録について説明

(5) 協議事項

i) 将来ビジョン（基本構想）計画体系について

ii) その他（重要政策について）

【基本構想について】

OKPIについて（資料3左面）

・基本構想の成果指標（健康寿命～、幸福度～）としては、もう1つ増やした方がバランスが取れるのではないか。

・「健康な社会」については、まちが持つポテンシャルを発揮すること、風土や歴史的な側面が表現される、自分が穏やかでいられる言葉だといい。全体の目指す姿が健康寿命の延伸なのは疑問。

・目指す姿は、全世代を対象にしたものがいい。健康寿命だけでは対象とする範囲が狭い。特に若い世代を巻き込んでいけるようなものであるべき。

・健康寿命の延伸は、今までの議論では重要政策のKPIでもあった。全体のKPIとしてはふさわしくない。

・分かりやすく、馴染みやすいものにしたい。目指す姿も言葉として固いため見た人が自分事として捉えられるような表現に。内容は難しくても表現は柔らかい方がいい。

・地域の資源を生かし住民の力を最大限に引き出すと事が重要であると感じたが、基本構想にあるKPIとは一致していない。この取組をしたからこうなるという道筋がはっきり繋がるようにすべき。

- ・KPIを設定することによって必要な事業が制約されたり、自由な発想ができなくなると感じる。目指す姿さえ全体で共有できるのであればKPIは必要ない。

○基本構想デザインについて

- ・ハニカム構造の図について何も記載がない部分については必要ない。
- ・健康を表す両方の図柄を統一すべき。

→デザインについては、今後作り込んでいく。

- ・心と体が支えるものとして社会が存在するので、3つを並列にした扱いではなく違う表現にしていくべき。

- ・ハニカム構造の図（資料3左下）の空白部分に市民の声の「つぶやき」を書き込み重要政策をおいた根拠を出すと、より分かりやすく興味をもってもらえる。

○基本構想内の文言について

- ・健康な心の部分で、大変になった時に頑張れるような言葉があるといい。
- ・健康な心の部分で、自分を大切にできるような言葉があるといい。
- ・市内に住み、働くことだけに拘らず、地域を思う心というのがあるといい。
- ・地域再生、防災の部分で、持続可能な地域、レジリエント（回復力）、色々な事に立ち向かうような言葉を使ってみては。
- ・健康な「心」「体」「社会」とあるが、3つが同等にあるのが馴染まない気がする。
- ・もっとも基礎的な社会の構成単位である家庭についてもその重要性を示すべき。
- ・色々なキャッチコピーがあるが、言葉から強く伝わるものがない。言葉が優しすぎる印象。どこの市町村にも当てはまるので、美濃加茂らしさを出すべき。

【健康増進】

- ・赤字についてはどういったものなのか、また、最後の審議会では数字が入ったものになるのか。KPIで端数まで必要あるのか。

→（未）については、現状で把握していないもの。KPIとして管理するのであれば根拠のあるものを挙げていく。

- ・高齢者を対象とした事業の指標（KPI）が多く設定されている。
- ・めざす姿「生涯元気なまち」とあるが、まちを元気にするのか、人を元気にするのか分からない。

【女性若者活躍】

- ・アンダーラインが引いてある成果目標についてどういうものなのか。

→意識調査等のアンケートで把握する指標を示す。

- ・若者とはどの年代を指しているのか。

→明確な定義はないが、大学は無く、就労先についても十分でない現状で、一旦は市外へ出た若者がいつか戻ってくるような魅力を持ちたいという思いから来ている。

- ・就労意欲ではなく、就労促進ではどうか。

・就労意欲といっても、働く場所がなければ意味がない。魅力ある職場が、あるまちを前提として初めて言えることではないか。

→一つの政策だけで達成するものではなく、他の政策と連動して達成できるようなという意味である。

・産業振興とも関連するが、受け入れる環境、働ける環境、地域を整えることで、若者が集まってくることに繋がる。

・施策では地域参画になっているが、K P I が就労意欲では範囲を狭めてしまう。就労だけではなく、若者に住み続けてもらうことが重要。

・審議会における女性の割合についてのK P Iがあるが、審議会だけではなく、他も含められるようにした方がいい。

・子ども達が、主語になるようなK P Iがない。若者だけではなく、その下の世代についても設定すべき。児童、生徒が実感できるような事業も必要。

・若者に関するK P Iをもっと強調すべき。

【多文化共生】

・外国人と交流とあるが、「外国人」が誰を示しているのか。観光客の外国人や、ネットで繋がる外国人もいるが対象としてどの外国人なのかが分かりにくい。

・外国人市民が自治会や消防団に当たり前にいるという環境になれば、外国人とかそういった言葉を使わなくてもいいようなまちになる。美濃加茂市の外国人への受入体制の評判はいいが、来る側の外国人が意欲的に馴染めるようなサービスまでで止めるのも方法だと思う。

・各政策でK P Iが設定されているが、個別計画がある以上、総合計画で多くのK P Iを設定する必要があるのか疑問。

【産業振興】

・有効求人倍率は、高ければ良いというわけでもないし、低いから悪いというものではない。全国的に高ければ田舎に若者は少なくはなることも考えられる。K P Iとしては適当ではない。

・インバウンドのK P Iは、効果検証など意味が分かりにくい。昼夜間人口についても、そのまちが何を指すのかによって設定するかしないかの判断になると思うので、設定するのであれば議論した上で設定した方がいい。

→インバウンドは、前回のグループ討議で外国人旅行者だけでなく、日本人観光客も含めるということで決定した。

・昼夜間人口比率のK P Iについて、この数値が高いから良いのか悪いのかよく分からない。

・付加価値額とあるが言葉が難解。市民にわかりやすい総合計画とあるので、もっとなじみやすいものであるべき。

【地域再生】

・「資料2」と「資料3」の言葉の整合性が取れていないと思う。

→今までは、重要政策について個々に協議してきた。今後その内容を体系にまとめていくために作成したのが「資料3」であり答申までに整合性のとれたものにしていく。

・KPIに耕作放棄地とあるが、施策ではその点に触れていない。具体的事業がないのはどうなのか。また「地域再生」の分野にある点も馴染まない。

・耕作放棄地について、最近都市整備分野の話の中で、世の中の流れ的に都市整備に位置付けてやっている状況がある。耕作放棄地についてはどの部分に位置付けるかは議論した上で位置づける。第6次産業のような農業の振興の方法もあるので、そういった施策もいい。耕作放棄地についても、産業的な側面と、住環境的な側面があるので、判断が必要。

・耕作放棄地に限らず、空家、空地の有効活用できる施策が必要。

【防災・減災】

・生き残ろうとすると必死な感じが伝わってくるが、災害に備えることも重要である。

→前回のグループ討議では、生き残るために必要な準備をしようという意味合いも含めて決定した。

(3) 企画課長からあいさつ

5 【次回開催日】

次回開催日は、令和元年5月27日(月)19:00~21:00とした。

以上